

# 田熊石畑遺跡

## 国指定史跡

たぐま いし はたけ いせき



1号墓調査風景

墓域から出土した  
武器形青銅器と装身具

**遺跡の所在地** 福岡県宗像市田熊二丁目9番37外

**主な時代** 弥生時代～古墳時代  
(紀元前3世紀から紀元6世紀頃)

**遺跡の種類** 弥生時代の集落と墓域、  
古墳時代の倉庫群

**指定面積** 31,590.37m<sup>2</sup>

**指定年月日** 平成22年2月22日

この遺跡は、市の中央西部、市内を流れる釣川中流の台地の上(標高12m)にあります。宗像高等女学校(宗像高校の前身)、旧中央中学校などの学校用地でしたが、移転後はながらく市街地の中に残された空き地となっていました。平成20年(2008)になり民間の開発にともなう発掘調査が開始され、わが国の弥生文化を考える上で大変重要な遺跡であることがわかり、保存されることになりました。

### 発見のいきさつ

昭和8年(1933)、宗像高等女学校に赴任されていた田中幸夫教諭によって運動場の拡張工事の際に弥生時代の集落遺跡を発見、学生とともに発掘調査が行われました。これが宗像地域で最初の考古学的な発掘調査です。



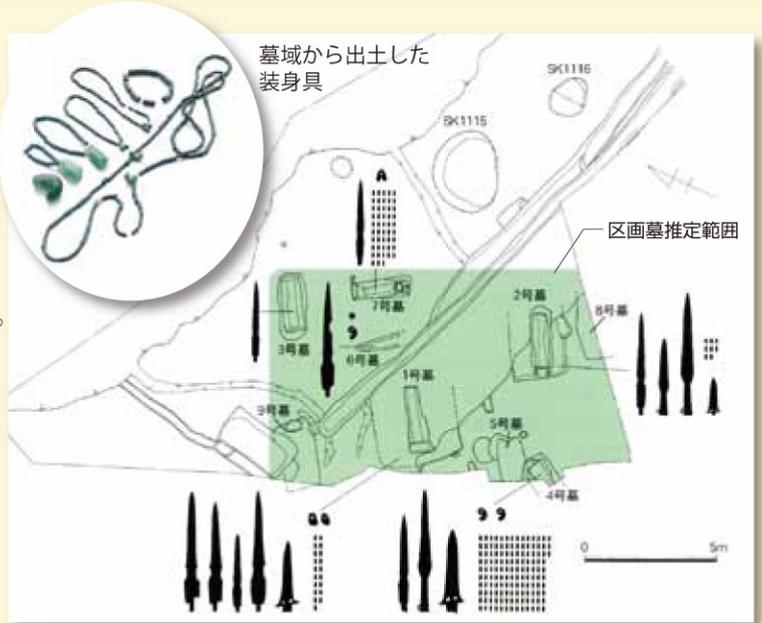
集落跡から出土した  
土器や石器

## 驚きの大発見!!

調査開始からほどない6月、中世の大溝を掘り下げていると、鮮やかな緑青におおわれた銅戈が出土し、弥生時代中期前半(紀元前2世紀頃)の刳拔式木棺墓があることがわかりました。その後も発見は続き、最終的に6基の墳墓を調査しました。その結果、すべての墓から武器形青銅器が出土し、合計15点にのぼりました。一つの墓域(区画墓)からの出土としては日本最多級です。

## 武器形青銅器とは

ももとは弥生時代前期末頃に朝鮮半島から伝わった青銅製の武器で、銅剣・銅矛・銅戈の3種があります。有力者の所有物とされ、この遺跡のように墳墓から大量に出土することはまれです。



弥生時代中期前半の墓域と周辺の遺構配置図

## 見直される宗像の弥生文化

この遺跡の出現によって伊都国や奴国、末羅国など『魏志倭人伝』にみえる弥生文化の先進地の東辺とみられていた宗像に、弥生時代中期前半の段階で吉武高木遺跡(福岡市)や宇木汲田遺跡(唐津市)などとほぼ同格の有力者集団が存在していたことがわかりました。中国の歴史書『漢書』地理志にみえる弥生時代中期頃の倭(日本)にあったとされる百余りの国々「百余国」のひとつに考えることも可能です。



古墳時代の倉庫群と東郷高塚古墳  
(左上の森)



宗像の歴史について  
もっと知りたいなら  
ここにアクセス  
するのじゃ!

むなかた電子博物館

検索

<http://d-munahaku.com/index.jsp>

【お問い合わせ】

海の道むなかた館

〒811-3504 福岡県宗像市深田588 TEL0940-62-2600 FAX0940-62-2601  
開館時間:9:00~18:00 休館日:月曜日(月曜日が祝日の場合は翌平日)

## 有力集団ムナカタ族のルーツ!?

また、整然と建ち並ぶ古墳時代(6世紀頃)の倉庫群も見つかっており、その規模から在地豪族とのかかわりを考えることもできます。近隣には東郷高塚古墳(4世紀後半)やスベットウ古墳(6世紀中頃)といった前方後円墳がつくられていることから、田熊・東郷地域は古墳時代になっても重要なエリアであったといえます。

田熊石畑遺跡は、このような有力集団を育てるゆりかごであり、古墳時代にはヤマト王権と手を結び、大海原を舞台に活躍したムナカタ族たちの出発点となったのではないのでしょうか。

